

## 第4回 京都在宅医療塾Ⅰ ～探究編～ 開催報告



洛和会音羽病院  
総合内科部長・感染症科部長 神谷 亨氏

平成30年2月4日(日)、洛和会ヘルスケアシステム洛和会音羽病院 総合内科部長・感染症科部長 神谷 亨氏を講師に迎え「在宅医療のための感染症の知識」と題し、研修会を開催。医師104名・看護師53名が参加されました。

1時間目「在宅医が知っておくべき AMR」、2時間目「AMR を意識した在宅での感染症治療」、3時間目「在宅医療での感染対策・予防接種」という構成で、耐性菌の世界的な問題から、クリニックでの日常診療で活かせる内容をわかりやすくご講演いただき、明日からの診療に役立つ研修会となりました。3時間のご講演でしたが、各時間で質疑応答と10分の休憩をいれることで集中して参加する事が出来たと参加者よりお声をいただきました。会場からは多くの質問があり、一つ一つの質問に丁寧にご回答いただき、さらに学びが深まりました。研修会後、具体的な症例や具体的な薬の使い方などについて神谷先生にご講演いただきたいとの希望を多くいただきました。

会場からは多くの質問があり、一つ一つの質問に丁寧にご回答いただき、さらに学びが深まりました。研修会後、具体的な症例や具体的な薬の使い方などについて神谷先生にご講演いただきたいとの希望を多くいただきました。



会場の様子

### ● 受講者のご意見 ● (参加者アンケートより抜粋)

- AMR の整理ができた。集団免疫の考え、感染対策がよかった。(医師)
- 耐性菌が世界的問題となっていることが、改めてわかりました。医療以外にも抗生剤が大量に使われているのは重大な問題で、大変驚きました。医師が、感染症や抗菌薬使用についての哲学を一般に向けて発信することで、産業間の利用抑制につながればと思います。(医師)
- 世界的なレベルの問題と日常診療をつなぐよう、講演をさせていただいて、大変ありがたく思っています。(医師)
- 抗菌薬に関する実情が分かり、今後の診療の改善点が明らかになり良かった。(医師)
- ちょうど在宅で ESBL の利用者様を受けた時でしたので知識を増やせて良かったです。在宅の経験のある先生でしたので、在宅の難しさを良く知っていただいていた講義が嬉しかったです。ゼロリスク症候群のスタッフへのアプローチの方法がわかりました。(看護師)
- 感染症、耐性菌について、改めて意識する必要性を感じ勉強させていただきました。(インフルエンザ、肺炎球菌、水痘、ワクチン有効性について改めて知り、人に説明できる自信になります。)(看護師)

## 平成30年度 介護報酬改定説明会開催のご案内

対象：全指定介護サービス事業所、施設  
※1機関(1事業所番号)につき2名までの参加  
内容：平成30年度介護報酬改定の概要、算定の留意点等について

申込み：不要  
参加費：無料(ただし資料代は実費負担)  
資料：受付にて販売予定

- |                                      |  |                                      |
|--------------------------------------|--|--------------------------------------|
| ▶ と き：平成30年3月20日(火)<br>午後1時30分～4時30分 | ▶ と き：平成30年3月21日(水・祝)<br>午後1時30分～4時30分 | ▶ と き：平成30年3月25日(日)<br>午後1時30分～4時30分 |
| ▶ ところ：国立京都国際会館                       | ▶ ところ：国立京都国際会館                         | ▶ ところ：舞鶴市総合文化会館                      |

在宅医療に関する質問があればお問い合わせください。サポートセンターと保険医療課で連携し回答いたします。

お問い合わせ、ご意見及びご感想は  
京都府医師会在宅医療・地域包括ケアサポートセンター  
〒604-8585 京都府京都市中京区西ノ京東桐尾町6番地 京都府医師会館3階  
tel.075-354-6079 fax.075-354-6097

京都府医師会

# 在宅医療・地域包括ケア サポートセンター news

Vol. 22

2018年3月15日

京都府医師会在宅医療・地域包括ケアサポートセンター  
〒604-8585 京都府京都市中京区西ノ京東桐尾町6番地 京都府医師会館3階 tel.075-354-6079 fax.075-354-6097

在宅医療・地域包括ケアサポートセンター news は奇数月15日の発行です。

### Main menu

- ◆ 第3回京都在宅医療戦略会議 開催報告(P.2)
- ◆ 第4回総合診療力向上講座 開催報告(P.3)
- ◆ 主治医研修 南部会場 開催報告(P.3)
- ◆ かかりつけ医認知症対応力向上研修(西京) 開催報告(P.3)
- ◆ 第4回京都在宅医療塾Ⅰ 開催報告(P.4)
- ◆ 平成30年度 介護報酬改定説明会開催のご案内(P.4)

## 京都在宅医療塾Ⅱ ～実践編～ 開催報告



左より、コメンテーターの  
土井医院 院長 土井 正樹氏  
洛和会音羽リハビリテーション病院 在宅医療支援センター  
センター長 谷口 洋貴氏  
よしき往診クリニック 院長 守上 佳樹氏



左より、  
訪問看護認定看護師 松久保 眞美氏、勝本 孝子氏  
まつだ在宅クリニック 院長 松田 かがみ氏  
府医 山下 琢理事、府医 角水 正道理事

今年度最後の京都在宅医療塾Ⅱ～実践編～は、テーマを「在宅医療の限界を高めるために、あなたならどうする!？」と題し、在宅医療の現場で在宅医療を続けるか、入院するか判断に迷う事例について、参加者とディスカッションする研修会として2月14日(水)に開催いたしました。

内容は、事例として①「誤嚥性肺炎」(府医 角水理事)、②「腰痛」(府医 山下理事)、③「がん末期の独居の方は在宅で看取れますか?」(まつだ在宅クリニック院長 松田かがみ氏)を提示し、各判断ポイントをクイズ形式で参加者へ質問。投票ツールで参加者に回答いただき、投票をもとにしたフロアーからの質問や意見に対して、コメンテーターよりアドバイスや意見をいただきました。

コメンテーターとして、土井医院院長 土井 正樹氏、洛和会音羽リハビリテーション病院 在宅医療支援センター センター長 谷口 洋貴氏、よしき往診クリニック 守上 佳樹氏、訪問認定看護師の松久保 眞美氏、勝本 孝子氏にご協力いただきました。

初めての試みでしたが、25名が参加され、「コメンテーターのアドバイスが聞けて良かった」「在宅医療の複雑さがよく理解できた」「それぞれの経験を話す研修会に参加したい」などのご意見をいただく一方で、「意見が出しにくかった」「もっとノウハウが聞きたかった」などのご意見があり、改善点のある研修会となりました。

今回の反省を生かし、外来診療を行いながら在宅医療に取り組みおられる先生方と在宅医療の複雑さ(患者・家族の背景と信頼関係の構築、手技、投薬のコツなど具体的な解決方法、意思決定、地域資源の活用、多職種との連携など)について、もっと掘り下げた議論が展開できる研修会を開催してまいりますので、ご期待ください。

### 投票の流れ



## ■ 第3回 京都在宅医療戦略会議 開催報告

平成29年12月16日(土) 府医会館にて、第3回京都在宅医療戦略会議を開催し、地区医師会より22地区28名の担当役員と京都府・京都市の担当課及び関係7団体の代表に参加いただきました。

今回は、横浜市における在宅医療推進事業について、行政・医師会・訪問看護ステーションのそれぞれの立場からご講演いただきました。

横浜市医師会・水野会長は冒頭の挨拶で、横浜市では地域包括ケアシステムの中で特に在宅医療を最優先項目として位置付け、行政の委託を受けて平成25年よりモデルケースとして「在宅医療連携拠点事業」に着手し、28年度には市内全18区に設置されている各区医師会立の訪問看護ステーションに在宅医療連携拠点を設置し、全国的に先駆けて取り組みを進めてきたことを紹介されました。



横浜市医師会長  
水野 恭一氏

### <講演>

#### 1. 横浜市における在宅医療推進事業について

横浜市医療局 疾病対策部長 藤井 裕久氏

#### 2. 横浜市「在宅医療連携拠点」稼働の軌跡

横浜市医師会 常任理事 赤羽 重樹氏

#### 3. 在宅医療連携拠点事業の取組みについて

神奈川区在宅医療連携拠点・神奈川区医師会

訪問看護ステーション 管理者 木村 光代氏

藤井氏より、同事業において行政が担う事務的な役割を中心に、「よこはま保健医療プラン」として行政施策に位置づけ、横浜市医師会と行政が両輪となって一体的に整備を進めてきた経過をご説明いただきました。行政として在宅医療に取り組む医師を支援し、今後は高齢者に限らず対象者を広げ、地域包括ケアの充実化を図っていく考えが示されました。

続いて、赤羽氏は「在宅医療連携拠点事業」の開始当初に行政から求められた【体制】、【業務内容】(右記)を中心に、拠点の設置に係る課題や医師会と訪問看護ステーションとの業務分担について神奈川区での事例紹介を通じて具体的にご説明いただきました。

【体制】ケアマネジャー資格を有する看護師2名と事務職1名。看護師は拠点事業と訪問看護を担い、事務職が煩雑な事務作業をサポート。

#### 【業務内容】

- (1) 相談・支援業務(運営時間:平日9時~17時)
  - ①医療資源の情報一元化
  - ②医療機関、地域包括支援センター、介護事業者からの問い合わせに対する在宅医療機関や訪問看護ステーション等の紹介、医療的な助言・支援(必要に応じて医療機関に出向き退院・調整の支援)
  - ③市民の在宅医療に関する相談窓口
- (2) 医療機関連携や多職種連携における課題の共有・解決策の検討
  - ①在宅医同士のバックアップシステム
  - ②在宅患者の急変時の入院病床の確保  
= 診診・病診・病病連携システムを構築
  - ③かかりつけ医を対象とした在宅医療研修の企画・開催(年1回)
  - ④多職種での連携会議(年2回)
  - ⑤多職種間での事例検討会(年間10回)
- (3) その他
  - ①市民への啓発活動(講演会・年1回)
  - ②横浜市医療局への報告(緊急一時入院対応実績・かかりつけ医バックアップ事例記録)(月1回)

木村氏からは、同事業の実施状況とともに、相談窓口機能における地域包括支援センターとの役割分担や具体的な相談内容について紹介があり、ケアマネジャー資格を有する訪問看護師が相談事業を担うメリットとして、①医療と介護の両面からアプローチできる、②医療と介護とのパイプがあり相談を受けやすい、③地域の医療資源の特徴を知っている、④隠されたニーズの抽出が出来る、⑤緊急の判断がしやすい、⑥地域医療について広報ができる一と説明。また、地区医師会に連携拠点があることで、「在宅医療で困った時の窓口がある」、「地域の医師会が実施していることで地域も動く」、「広域の病院からの退院調整の相談に対応できる」、「情報の集約化・課題抽出がしやすい」という利点を挙げ、同事業の実施にあたっては煩雑な事務局機能のサポートが必須であることを強調されました。

続いての質疑応答では、ご出席の地区医師会の先生方と活発な意見交換が行われました。

最後に、西村府医理事からの平成30年度介護報酬改定説明会の開催案内に続いて、京都府より、「京都府保健医療計画の中間案」、「第8次京都府高齢者健康福祉計画(第2次京都府高齢者居住安定確保計画) 中間案」、「新・京都式オレンジプラン中間案(第2次京都府認知症総合対策推進計画)」について、京都市からは「平成30年度京都市在宅医療・介護連携支援事業」について説明がありました。



横浜市医師会長 水野 恭一氏(左)、  
横浜市医師会常任理事 赤羽 重樹氏(中)  
と参加者(右)による質疑応答の様子



会議の様子

## ■ 第4回 総合診療力向上講座 開催報告

平成30年1月13日(土)、京都大学医学部附属病院 産科婦人科 女性健康医学研究室 特定研究員 池田 裕美枝氏を講師に迎え、「プライマリ・ケア現場での女性診療」をテーマに研修会を開催。本会場132名、北部会場12名、南部会場6名、計150名の医師が受講されました。



京都大学医学部附属病院 産科婦人科  
女性健康医学研究室 特定研究員 池田 裕美枝氏



本会場

### ● 池田先生よりメッセージ ●

2018年1月13日に『プライマリケア医のためのウィメンズヘルス』というタイトルで、前半はプロダクティブヘルス&ライツの世界と、日本における現状を、後半は月経困難症と更年期障害について、お話しさせていただきました。

産婦人科医として勤務してきた中で垣間見える、性についての社会的未熟ゆえの不条理(中絶、DV、虐待、性的ビジネス被害、月経の社会的インパクト、不妊の背景、HPV ワクチンの極端な接種率低下など)について、データを混じえて解説し、女性の活躍支援以前に女性の健康支援の必要性があることを訴えました。聴講されていた先生方は年代層も厚く、当初は、世代によっては男女協働の考え方そのものを受け入れていただけないのではないかと心配しましたが、次第におひとりおひとりが熱心に聞き入ってくださる様子が伝わってきて、また、講演後のご質問からも、皆様の医療者としてのプロフェッショナルの前にはジェンダー云々は些細な事なのだと感動いたしました。

後半の各論1編目は月経困難症を取り上げ、痛みを放置しないこと、NSAIDsは予め飲むよう指導することや、低用量ピルの効用について説明しました。2編目の更年期障害では、ホルモン補充療法についてクイズ形式で解説しましたが、ほとんどの方が手を挙げて参加してくださり、理解を深めてくださったのではないかと思います。

この度は貴重な機会を与えてくださり、誠にありがとうございました。これを機に京都の女性の健康が底上げされることを祈りつつ、私も京都府医師会を通じてさらに学ばせていただきたいと思います。

## ■ 主治医研修 南部会場 開催報告



会場の様子

平成30年1月20日(土)、京田辺市商工会館 CIK ビルにて研修会を開催。「フレイル&サルコペニアと介護予防」を京都学園大学健康医療学部 教授・木村 みさか氏に、「『栄養・食生活』栄養・食事指導の実際」を管理栄養士 木村 美枝子氏に、「介護保険制度における主治医の役割と主治医意見書の記載方法」を府医 介護保険担当理事 西村 幸秀氏に講義いただき、医師38名、多職種13名の参加がありました。

## ■ かかりつけ医認知症対応力向上研修(西京) 開催報告

平成30年1月27日(土)、京都市リサーチパーク(京都市下京区)にて研修会を開催。認知症サポート医講演、第1部の「診断・治療」を京都桂病院 岸 信之氏と洛西シメズ病院 河本 恭裕氏に、第2部「かかりつけ医の役割」「連携と制度」を塚本医院 塚本 忠司氏と土井内科医院 土井 たかし氏にご講演していただきました。

講演の後には寸劇「これって認知症」が行われ、グループワークも行うことで学びが深まる研修会となりました。

当日は医師20名、多職種43名、民生委員6名、計69名の参加があり、受講者からは「BPSDになる前の家族や医療者の対応が学べた」、「介護保険制度や在宅での診断と対応方法が学べた」などの感想をいただきました。



会場の様子